

まつもと市民芸術館館長 殿

平成 31 年 4 月 26 日

藤岡 信勝（新しい歴史教科書をつくる会副会長）

藤木 俊一（テキサス親父事務局長）

山本優美子（なでしこアクション代表）

連絡先：112-0005 東京都文京区水道 2-6-3

新しい歴史教科書をつくる会

電話：03-6912-0047

FAX：03-6912-0048

申 入 書

日々の公務へのご精励に心より敬意を表します。

私たちは、令和元年 5 月 12 日松本市中央公民館および、5 月 26 日まつもと市民芸術館にて上映される予定の映画「主戦場」（監督：デザキミキ）に関して、上映を取りやめて頂きますよう申入れをいたします。理由は以下のとおりです。

私たちは、平成 28 年秋頃、上智大学大学院の学生と自称する出崎幹根氏（上記の監督と同一人物）から慰安婦問題をテーマにした修士課程の卒業論文の代わりとなるビデオの卒業制作をしようとしているので、教えていただきたいとの趣旨でインタビューの依頼をそれぞれ別個に受けました。学生の勉強のためなら協力してあげようと思い、3 人ともそれぞれインタビューを受諾しました。ところが、出来上がった作品とその取扱いは、私たちが知らされていたこととは全く異なり、以下のように信義則に反し、法的にも違法行為の疑いのある重大な問題を含んでいました。

- ① 出崎氏は修士研究を目的としてインタビューを申し込んだにも関わらず、商業映画として公開されたこと

私たちは、そもそも、出崎氏が上智大学の博士前期課程に在籍する学生として、修士研究のために行う研究活動の一環であると認識してインタビューに応じました。そのインタビューの動画を商業映画として使用するなどということは夢にも思わなかったことです。これは明らかに信義則に反するものであり、絶対に容認することはできません。また合意書では作品を私たちに送ることになっていますが、それを氏は全く

実行していません。私たちには隠れて、昨年10月の韓国での上映を皮切りに、日本全国で上映料を徴収して上映しようとしております。私たちは誰一人、このような上映について許可しておりません。

② インタビューを受けた人数が偏っていること

私たちは、出崎氏が、保守、リベラル双方にインタビューし、公平かつ学術的に慰安婦問題を取り扱うと述べたことを信じていましたが、出来上がった「主戦場」という作品は、そうなってはいません。映画のパンフレットで紹介されている登場人物を立場別に数えると、8人对18人となり、あまりに公平さを欠いた偏った構成となっていることが明白です。

③ 映画の編集方法に問題があること

映画「主戦場」は、私たちがこの問題についてどう考えているかを正確に知ることができるような編集の仕方をせず、発言の一部を断片的に切り取り、印象操作によって、私たちがそろって悪人であるかのようにつくられています。「公平に慰安婦問題を取り扱った映画」と製作者が主張することには全く根拠がありません。

④ インタビュー編集の方法に問題があること

出崎氏は、まず、私たち側の主張をインタビューし、その後に相手側にその映像を見せ、それに対して反論をさせるという形でインタビューを行いました。このことは、4月4日に外国人特派員協会（FCCJ）にて行われた記者会見で、出崎氏がその事実を認めています。相手側の反論に対する私たちの反論権は一切なく、また、上映前にどのような映画になったのかという確認もすることができないまま、この映画は封切られてしまいました。私たちは、このような卑劣なやり方を断じて容認することはできません。

私たちは、このような重大な問題を持っている映画「主戦場」が、公共施設である、公民館、市民芸術館でドキュメンタリーとして上映されることは全く相応しくないと考えます。従って、映画「主戦場」を上映するために、松本市が会場を貸し出すことについて、撤回されるようここに申入れをいたします。

本申入れにつきまして、5月9日までにFAXおよび郵送にて上記連絡先への回答をお願いいたします。なお、この申入書は適当な時期に公開を予定しております。（以上）